

令和7年度地域の新たなつながり・価値共創事業報告会

地域に根差した真の連携が生み出す 課題解決へのアプローチ

西北地域連携事務所 地域支援課

令和8年2月25日（水）

複雑化する西北地域の地域課題

人口減少や過酷な気象、人手不足などの状況が複雑に絡み合い、自治体単独では解決が難しい課題に直面しています。



人口減少・高齢化

高齢単身世帯の割合は県内最多であり、コミュニティの維持が限界を迎えつつあります。



公共交通の移動ニーズとの乖離

単身高齢者が通院や買い物といった生活に不可欠な移動手段を失いつつある深刻な状況です。



極端気象の常態化

豪雨災害や2年連続の災害級の大雪など、極端気象に見舞われているほか、地域特有の地吹雪は冬の暮らしに大きな影響を与えています。



深刻な労働力不足

官民双方の担い手不足。特に、増加する行政需要に対しマンパワーが不足し、単独での課題解決が難しくなっています。

連携の質を変える、3つの重点アプローチ

今年度の取組は、形式的な連携の強化だけでは、複雑化する地域課題に対応できないという認識から出発しました。西北地域連携事務所で重視したのは、現場レベルでの3つのアプローチです。

01

質の高い コミュニケーション

一方的な事例等の共有から、相互の意見交換へ。対話の深さを重視。

02

信頼に基づいた 人財の確保

行政主導ではなく、信頼の連鎖による有機的なネットワークを構築。

03

現場に足を運び、 実際の状況を把握

机上の理論から脱し、住民の方の生の声に触れることで、地域の実情を把握。

01 質の高いコミュニケーション

一方通行から「対話」へ

合計で4回実施した**地域づくり勉強会**では、出席者による意見交換の時間を意図的に確保。県と市町、あるいは市町双方の心理的な垣根を取払い、本音の対話を促すことで、連携の強化を図りました。

▶地域づくり勉強会取組実績

開催状況：5月、7月、9月、11月の4回開催

開催内容（主なテーマ）

- ・地域おこし協力隊や集落支援員等に関する事例紹介・意見交換
- ・地域交通に関する国の出前講座や市町の取組事例紹介・意見交換
- ・雪の勉強会（国の研究機関のデジタル技術を活用した雪対策等）



02 信頼に基づいた人財の確保

キーマンが繋ぐ、 熱量の高いネットワーク

青森新時代共創ラボでは、メンバー選定時に地域活動の中心となる「キーマン」から次の信頼できる人を紹介してもらいリレー方式を採用。これにより、多様な人財がゆるやかにつながる人的ネットワークが構築され、地域のことをよく知っている人財ならではの**地域の価値共創プロジェクト**として3つのプロジェクトを実施しました。

▶青森新時代共創ラボ参加メンバー

地域団体、農業、旅行業、地域おこし協力隊、宿泊業、IT企業

▶地域の価値共創プロジェクト概要



○津軽ほっかむるんズPJ
津軽のほっかむり文化をSNSにより発信。地域への愛着を育む。



○未知を知る大学PJ
特定の分野を極めたゲストによる講演を実施。知識の提供と繋がりづくりを促進。



○縁joy津軽PJ
津軽の多彩な魅力を集約した新たな観光マップを作成。



03 現場に足を運び、実際の状況を把握

住民の声に触れ、地域のニーズを把握

市町村伴走支援事業では、課題を抱える地域へ積極的に足を運び、住民の方の生の声に触れることを徹底。当事者の一人として状況を正確に把握するとともに、地域の実情に寄り添った新たな解決策の選択肢を提示することができました。

▶市町村伴走支援取組実績

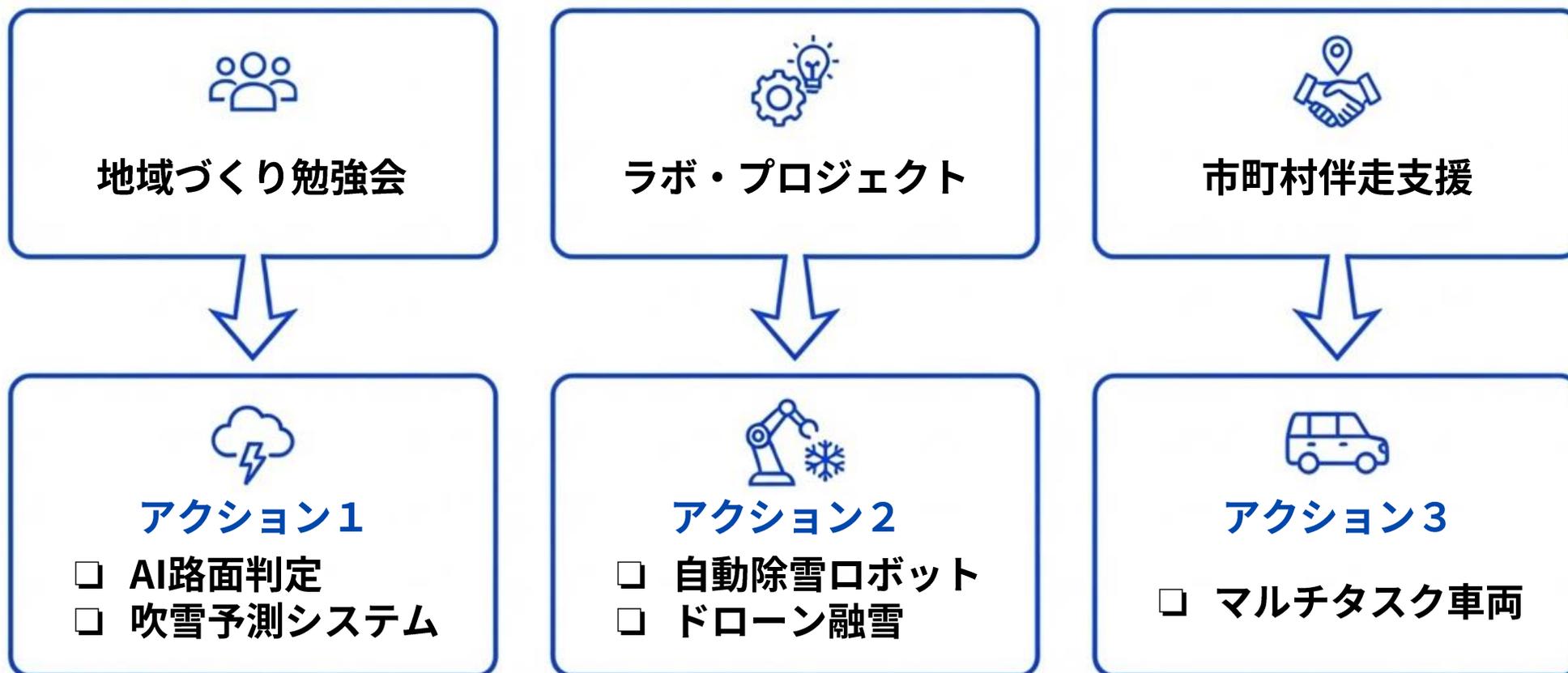
深浦町：岩崎地区における集落支援員の活用への支援（R6～R7）
（集落点検等の活動への助言を得るための専門家の調整等）

中泊町：小泊地区への新たな移動手段の導入への支援（R7～R8）
（国補助金活用、専門コンサル活用及び先進事例調査等の調整）



現場の声から生まれた、柔軟かつ具体的な対応

それぞれの取組と並行して、現場の声を踏まえた西北地域独自の具体的な「アクション」を展開しました。



アクション1

予測データとAIによる安全の確保

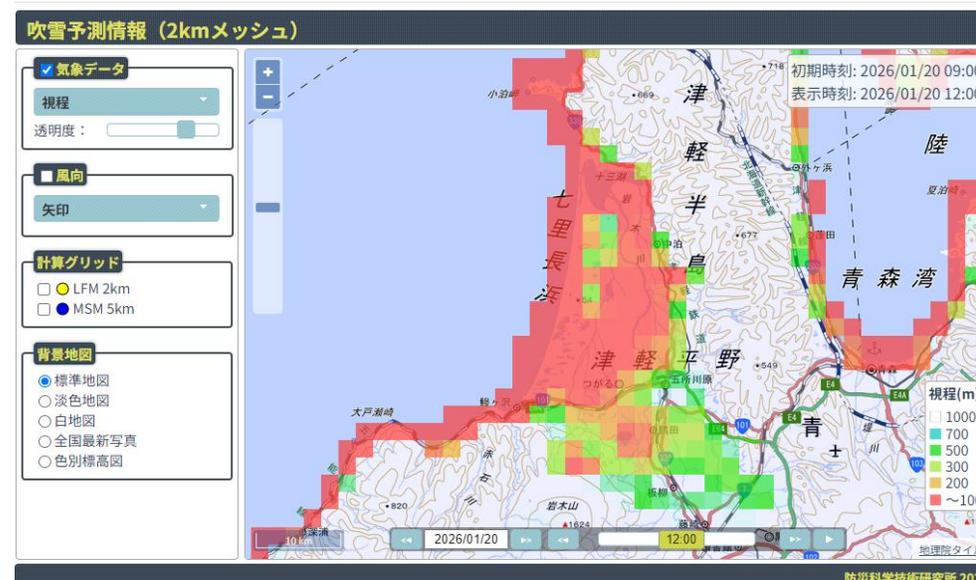
昨今の大雨や大雪といった極端気象や地域特性である地吹雪による冬の暮らしへの影響などに対応するため、雪氷防災研究センター及び弘前大学と連携し、圏域市町と共にAI路面判定システム、地吹雪予測システムの試験運用を実施しました。

AI路面判定システム

車両に搭載したスマホで2秒に1枚画像を撮影し記録。大雨や大雪時の路面状況をAIが解析し、危険度を可視化します。

吹雪予測システム

西北地域の地吹雪特性を捉えた、精度の高い独自の予測モデル。



アクション2

次世代技術による冬の生活負担軽減

人口減少や高齢化が進む中、西北地域の厳しい冬に対応するため、研究機関や民間企業の協力を得て、AIや自動化などの次世代技術の活用方法を探り、その内容を地域と共有することを目的に、2024年／2025年冬季の記録的豪雪により被害を受けたTSURUTA LABOにおいて、自動除雪ロボット「Yarbo」及び農業用ドローンによる融雪剤散布の実証試験を実施しました。

▶西北地域「冬の暮らし」を支える次世代技術の実証試験取組実績

日時：令和8年1月19日（月） 10時～／13時～の2回実施

協力企業等：(株)ワイ・システムズ国際、(株)ソラノエ、日本工機(株)、（一社）もったいない研究所、弘前大学、雪氷防災研究センター

参加者：協力企業等関係者及び市町職員合計20名



発想の転換 「マルチタスク車両」

地域交通が縮小する中、地域住民の買い物や通院等を支援する方策の1つとして、サービスを移動させる「マルチタスク車両※」の乗車体験会を中泊町下前地区において実施し、住民生活の利便性を向上させる知見を収集しました。

※提供するサービス毎に社内のレイアウトを変更し、様々な用途で活用できる車両（提供するサービス例：行政窓口、物販、診療 等）



▶マルチタスク車両乗車体験会取組実績

日時：令和7年12月23日（火）10時30分～

場所：中泊町すくすくしたまえ館

内容：血圧測定、ベジチェック

協力：中泊町、町社会福祉協議会、町兼任集落支援員、

特産物直売所「ピュア」

参加者：下前地区住民約30名



■ 西北版「価値共創」に向けて

形式的な連携を超え、質の高いコミュニケーションと熱量の高いネットワーク、そして現場主義に基づき取組を深化させながら、地域の価値を共創する。

私たちはこの考え方にに基づき、多様な人財と技術を掛け合わせることで、西北地域の未来を切り拓く課題解決に向けたアクションを展開していきます。

